

『福島 環境再生100人の記憶』を発行しました

環境省では、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故発生から10年が経過することを契機として、書籍『福島 環境再生100人の記憶』を2021年3月11日(木)に発行いたしました。



■ 福島の復興に携わった老若男女100人(組)の声を紹介

「記憶編」では、除染や特定廃棄物の処分などの環境再生分野に加え、農業、漁業、林業、飲食店、旅館、食品メーカー、まちづくり、教育、震災孤児・遺児支援、子育て支援といった幅広い分野から福島の復興に携わった老若男女100人(組)のインタビューを掲載。これまでの苦難や努力、そこから導き出した教訓、そして復興に向けた新たな挑戦や取り組み、未来に対する思いなどをお届けします。

■ 資料やデータから見る福島の環境再生のこれまでとこれから

「資料編」では、東日本大震災の発生から現在に至るまでの福島の環境再生事業の歩みを資料やデータ、事業の担当者のコラムとともに紹介しています。除染、中間貯蔵、特定廃棄物の処理といった環境再生に向けた取り組みから、環境の観点から地域の強みを創造、再発見する「福島再生・未来志向プロジェクト」まで、福島の環境再生のこれまでとこれからをお伝えします。

本書の全ページを環境省のウェブサイトにて無料公開しています。

書籍につきましては、全国の書店やオンラインで販売していますので、ぜひご覧ください。

福島 環境再生100人の記憶 検索



環境省 テレビ特番「福島再生。10年のあゆみ」をWEB公開しました

2021年2月6日(土)に福島テレビ(FTV)で放送されました環境省テレビ特番「福島再生。10年のあゆみ」が環境再生プラザホームページで視聴できるようになりました。

あの日の笑顔やふるさとは、多くの人たちの協力によって着実に取り戻しつつあります。復興は確かな歩みをみせています。番組ではその人たちの決意や取り組みと福島県民への感謝メッセージなど、福島出身のタレントなすびさんのご協力でお伝えしています。ぜひご視聴ください。

福島再生。10年のあゆみ 検索



環境省の情報発信拠点

● 中間貯蔵工事情報センター



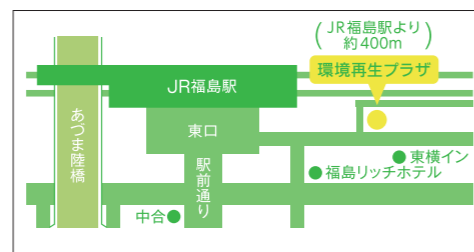
- 所在地 福島県双葉郡大熊町 大字小入野字向畑 256
 - 開館時間 10:00 ~ 16:00
 - 休館日 日曜日・月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 0240-25-8377
- 中間貯蔵施設工事について紹介しています。毎月、中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



- 所在地 福島県双葉郡富岡町 大字上郡山字太田 526-7
 - 開館時間 9:00 ~ 17:00
 - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 0240-23-7781
- 特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

● 環境再生プラザ



- 所在地 福島県福島市米町 1-311 階
 - 開館時間 10:00 ~ 17:00
 - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
 - 電話番号 024-529-5668
- 福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま 環境再生 Vol.17



「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。



いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウムの開催

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を契機に、福島そして全国のみなさまと一緒に、福島県の環境再生と未来について共に考えるイベントとして「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウム」を開催しました。

【開催日】2021年3月13日(土)

【開催場所】オンライン参加のみ

※ナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ(福島会場)」と環境省(東京会場)をオンラインで繋ぎ、無観客で開催

第1部

- 環境再生事業の振り返り
- トークセッション「ふくしま未来100人会議 みんなで考える福島の未来」

シンポジウムの開会にあたり、福島県における環境再生事業のこれまでの取り組みと今後の課題について説明を行いました。また、トークセッションではパネリストと県民の方をオンラインでつなぎ、東日本大震災直後に10年後の未来をどのように想像していたか振り返りながら、今考える30年後の未来や、未来に向けて今から自分にできることを語っていただきました。

第2部

- 基調講演「福島の復興と再生可能エネルギーのちから」
- 小泉環境大臣によるプレゼンテーション&トークセッション「福島の復興と再生可能エネルギーの未来」

基調講演では、これからの再生可能エネルギーの展望についてお話を伺いました。その後、小泉環境大臣による「福島の復興と再生可能エネルギーの未来」プレゼンテーションと、被災地応援でんき切替えデモンストレーションなどが行われました。

第3部

- いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」チャレンジ・アワード表彰式
- 内堀福島県知事メッセージ
- ふくしま未来トークセッション

第3部では、いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」チャレンジ・アワードの表彰式を執り行い、内堀福島県知事からはこれまでの10年を振り返るとともに、福島の未来への想いをお話いただきました。ふくしま未来トークセッションでは、最優秀賞の受賞者を中心にこれから起こしていきたいアクションや呼びかけたい提案についてお話いただきました。

詳細については、ホームページをご覧ください。

いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウム

検索



東京会場から参加された小泉環境大臣(左)と丸山桂里奈さん(右)



トークセッションの様子



基調講演をされた会津電力株式会社取締役会長 佐藤彌右衛門さん



内堀福島県知事と、優秀賞(福島県知事賞)を受賞した吉田さん(左)と三宅さん(右)

大熊町「町の記憶を、未来に伝える」聞き書き活動報告会の開催

環境省および環境再生プラザでは、2019年から大熊町での「聞き書き活動」を企画・サポートし、復興庁等の支援を受けたNPO法人元気になるろう福島と共に、慶應義塾大学公認学生団体S.A.L.に所属する学生が、大熊町民の皆さんからふるさとのお話を直接伺い、記録に残す活動を行っています。

2021年2月に開催された報告会では、大熊町民の皆さんに、県外の学生が中心となって行われてきた大熊町の記憶を未来に伝える活動の報告を行いました。

【開催日】2021年2月28日(日)

【開催場所】リプルンふくしま ※県外在住の学生はオンラインで参加

- 【プログラム】第1部 神戸大学の学生による町のジオラマの展示 -ふるさとのジオラマを囲んで思い出を語る-
第2部 慶應義塾大学の学生による聞き書きの報告会 -聞き書きの記録に触れて思い出を探る-



第1部では、神戸大学槻橋研究室に所属する学生が、町民の皆さんの証言や記憶を元に制作した大熊町のジオラマ模型を披露し、会場にいる町民の皆さんと、オンラインで参加した学生との間で交流が図られました。

第2部では、慶應義塾大学の学生がこれまで行ってきた「聞き書き活動」の成果を報告し、聞き書きを通じて感じた大熊町の魅力を残していくために、福島と他の人々への「架け橋」となって大熊町の「暮らし」を記録し未来に残していきたいと今後に向けた想いを共有しました。

pickup!



環境再生プラザホームページでは、「大熊町聞き書き活動」について詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。

大熊町「町の記憶を、未来に伝える」

検索

information

今回の報告会の様子は、ふくしまFMとTOKYO FMのラジオ番組で放送されました。

- ふくしまFM ラジオ特番

『大熊町—これまでの歩み、これからへの思いを「聞き書き」に託して』

東日本大震災から10年が経過した今年、震災の記憶を次世代に継承するための取り組みが本格化しています。番組では、聞き書き活動やジオラマ制作に参加した大熊町の方々や大学生たちの思いを、2月に実施した「大熊町『町の記憶を、未来に伝える』」報告会の様子を交えてお伝えしました。

番組をこちらからご視聴いただけます



- TOKYO FM ラジオ番組「Hand in Hand-復興応援PROGRAM-」

「福島の復興・再生のためにできること—学生たちのチャレンジ」
高橋万里恵さんがパーソナリティを務めるラジオ番組「Hand in Hand」では、県内の学生たちによる「環境再生」デザイン開発のお披露目会の様子や、県外の学生たちと取り組んだ大熊町での聞き書きと町のジオラマを活用した活動の様子、さらに環境省が「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』」をテーマに開催した「チャレンジアワード」の様子などをお伝えしました。

オンエアレポートはこちらから



Topix 全国的に広がるゼロカーボンシティ宣言!

環境省は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする(※)、ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素社会実現に向けた取り組みを進めています。

全国の自治体でも、人口規模で1億人を超える300の自治体がゼロカーボンに取り組むことを決めており、福島県はもとより、郡山市、大熊町、浪江町、福島市、広野町、楢

葉町、本宮市がゼロカーボンシティ宣言を行いました。

環境省では、ゼロカーボンの実現に向け、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりなど、地域の実情やニーズを踏まえ、取り組みを推進しています。

※「排出を全体としてゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いてゼロを達成することを意味しています。



脱炭素社会実現のための情報にアクセスできる入口サイトとして「脱炭素ポータル」を開発しました。カーボンニュートラル実現に向けた取り組みや、脱炭素の関連サイト情報、新着情報、トピックスなどを発信していきます。



地方公共団体における2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明の状況についても公開しています。